

東かがわ市市制施行20周年記念式典 市長式辞

本日ここに、東かがわ市市制施行20周年記念式典を挙行いたしましたところ、このように多くの市民の皆様のご列席を賜り、皆様とともに祝うことができますことは、誠に喜ばしく、心より厚く御礼を申し上げます。

また、ご多忙中にもかかわらず、ご臨席を賜りました香川県副知事 大山智様をはじめ、衆議院議員 瀬戸隆一様、参議院議員 磯崎仁彦様、香川県議会議員 花崎光弘様、代理の秘書の皆様、近隣の市長様、町長様、市議会議長様など、多数のご来賓の皆様のご来臨を賜り、誠にありがとうございます。

そして、この記念式典におきまして、長きにわたって市政に多大なご貢献をいただきました皆様を表彰申し上げますことは、誠に意義深く、地方自治をはじめ、住民自治、社会福祉、保健衛生、教育など様々な分野における皆様方の並々ならぬご尽力とご功績に対し、市民を代表し、深く敬意と感謝の意を表します。皆様方におかれましては、どうか健康にご留意いただきつつ、長年培ってこられました知識や経験により、なお一層のご活躍をご祈念申し上げます。

さて、東かがわ市が平成15年に誕生してから、はや20年の歳月が経ちました。このような節目の年を迎えることができたのは、国、香川県、近隣の市、町をはじめ、ご来賓の皆様のご指導とご支援、そして何よりも市民の皆様のご尽力の賜物であり、改めまして、心より感謝を申し上げます。

「次へつなげる20年」

今までの20年を振り返りつつも、東かがわ市を次の未来へつなげていく。旧3町の垣根を払い、東かがわ市全体をつなげていく。その思いで「次へつなげる20年」というキャッチコピーを定めました。

諸先輩方がこの20年築き上げてきた東かがわ市の歴史に、心から敬意を表します。合併直後には政治・行政だけではなく、市民の皆様の間にも様々な多くの迷いがありました。それを乗

り越えて、東かがわ市という新しい社会が安定するようになりました。そして今、人口減少・少子高齢社会の中で、「東かがわ市が、今後どうあるべきか」、「そのために、今何をしなければいけないのか」、が問われています。諸先輩方が紡いできたこの20年を、次の20年に「つなげる」強い決意を、ここに表します。

一方で、引田・白鳥・大内の3町が合併して20年が経ちましたが、旧町や地域性を意識した声はまだ残っています。「東かがわ市」としてひとつになって20年。制度は変わりましたが、少し前までは20歳といえば成人として社会に認められる年でした。20年という歳月は、東かがわ市が成長した証でもあります。今このときを、ひとつの東かがわ市として、改めて旧3町を「つなげる」契機としたいと考えております。

これまでの歩みを振り返りますと、公共施設の統廃合、そして、道路、下水道、漁港・港湾などのインフラ施設の整備にスピード感を持って取り組み、安全・安心のまちづくりの礎になるよう進めてまいりました。

その一方で、人口減少、少子高齢社会にあることから、若者定住施策、地域経済の発展や雇用の拡大につなげる施策、子育て支援施策の充実を重点施策とするとともに、高齢者支援施策、そして、地域活動の活性化施策などにより、持続可能な東かがわ市の実現に向けて取り組んでまいりました。

そのような折、令和という新しい時代を迎えた直後、新型コロナウイルス感染症という、未曾有の事態に直面いたしました。

感染症防止対策、ワクチン接種、経済対策などの実施に当たりましては、市民の皆様や議会の皆様のご理解とご協力により、円滑に進めることができたと感じております。また、これまで経験したことがない状況の中にあってもマスクや消毒液、避難所用テントなどの貴重な感染症対策用品をご寄贈いただきました皆様には、改めて深く感謝を申し上げます。

さらには、感染症の影響だけではなく、国際社会情勢の均衡が崩れたことによって、社会経済や生活の基盤となっているエネルギー供給も不安定となり、物価高騰として、私たちの生活

を揺るがす重大な事態となっております。

しかし、このような困難な状況にあっても、東かがわ市は市民の皆様とともに、決して諦めることなく、この困難を乗り越えようという強い思いを持ち続け、そして知恵と工夫によって打開策を考え、実行してまいりました。その環境の変化に対応する柔軟性と、決断力や行動力に触れるにつれ、私は、熱いものがこみ上げ、未来へつなげる東かがわ市民の芯の強さを改めて実感し、東かがわ市の持続可能性を確信しております。

さて、東かがわ市では、令和6年度から10年間の新たな基本構想を策定いたしました。東かがわ市が目指すまちの将来像は、「つながる未来を ともに創るまち 東かがわ」。

この20年で人口の4分の1が減った中で、これからの10年を展望し、未来につながる持続可能な東かがわ市を実現していくためには、「若い世代に評価されるまちづくり」、「人口減少に適応したまちづくり」が必要不可欠です。引き続き、厳しく難しい議論になることは、私自身、誰よりも覚悟をしております。併せて、高齢者の皆様への行政サービスを持続可能にしていくために、若い世代に評価されるまちをつくっていくしかありません。そして、その若い世代の子どもたちにも、「この東かがわ市に住んで良かった」、「育ってよかった」と思ってもらえるまちをつくり、彼らが、次の担い手としてこのまちを支えていく。そんな未来に、この20年をつなげていきます。

そのために、東かがわ市では、若者定住施策、市内経済の活性化、地域協働の促進、子育て支援施策等に注力した取組を、積極的にスピード感を持って推進するため、官民連携による様々な社会的課題の解決や、デジタル技術を活用した行政サービスの提供などの視点を取り入れ、未来につながる持続可能なまちづくりを目指してまいります。

また、2025年には、大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭2025が開催されます。両イベントの結節点ともなり得る東かがわ市におきましては、これらのイベントによって生まれる交流の流れを一過性のものとすることなく、拡大・発展させることで、持続的な地域づくりにつなげることを

目指し、2026年以降も見据えた戦略的な観光・交流施策に取り組んでまいります。

2025年に向けた取組を進めるに当たり、地域の皆様をはじめ、事業者の皆様、そして香川県、近隣の市町、関係機関の皆様と強くつながり、一丸となって、大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭2025を地域から盛り上げ、そして東かがわ市全体の賑わいにつなげてまいりたいと考えておりますので、どうぞ引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

そして、東かがわ市出身の笠置シズ子さんをモデルとした、NHK連続テレビ小説「ブギウギ」も放映されております。東かがわ市内で撮影されましたシーンが放映され、エキストラとして市民の皆様も出演されました。さらに、市民の皆様で結成された「ブギウギ応援隊」は、東京ブギウギの音楽に乗せたダンスで多くのイベントに招待され、大阪のイベントステージにも出演されました。「心ズキズキ、ワクワク」、そんな東かがわ市をつくってまいります。

最後に、東かがわ市が抱える課題は山積しておりますが、引き続き、さらに、市民の皆様や議会、行政、そして東かがわ市を愛してくださっている日本中の多くの皆様とつながりを深め、お力添えをいただきながら、「つながる未来を ともに創るまち 東かがわ」の実現に向けて、取り組んで行くこととお誓い申し上げます。

むすびに、本日ご臨席を賜りましたご来賓ならびに関係の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、そして、本日ご参会いただきました皆様方のますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、式辞といたします。

令和5年11月11日

東かがわ市長 上村 一郎